

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 16 日現在

機関番号：22501

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2016

課題番号：25671018

研究課題名(和文) 公衆衛生看護への意欲を継続し実践の質を高めるための支援モデルの開発

研究課題名(英文) Support model of the intrinsic motivation of public health nurses (PHNs) to become more professionally active

研究代表者

雨宮 有子 (AMAMIYA, YUKO)

千葉県立保健医療大学・健康科学部・准教授

研究者番号：30279624

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：保健師自身が、保健師活動へ内発的に動機づけられ実践の質を高めることを支援する方法を検討した。保健師は、内発的に動機づけられた保健師活動において「専門性を基にした実践の成果、保健師活動を通じた人とのつながり、保健師の役割自体、自らの成長」といった価値を感じていた。その経験を実現させた行動指針は、「関係者も保健師活動の対象と捉え、潜在的支援者へ思いを馳せ、住民や関係者と調和のとれた関係を重視する」ものであった。その経験を成し得た要因は、「他者からの教育的視点、自身での探究、他者と関わる体験」であり、プラス感情が付随する要因は、キャリアを通じた要因と考えられた。

研究成果の概要(英文)： In this study, we conducted a survey to investigate methods to support the intrinsic motivation of public health nurses (PHNs) to become more professionally active and to improve the level of their practical output. In terms of intrinsic motivation to become more professionally active, PHNs who responded to our survey recognized the value of practical outcomes based on expertise, personal relationships through PHN activities, the role of the PHN, and self-development. Action guidelines developed on the basis of these PHN experiences regarded the local community specialists as being a target of PHN activities, gave consideration to individuals who may require PHN assistance, and emphasized good relationships with the local community and specialists. The factors that constituted these experiences were the educational perspectives of others, self-exploration and interactions with others, while the factors associated with positive emotions appeared to be relevant at all career stages.

研究分野：地域看護学

キーワード：保健師 現任教育 内発的動機づけ 価値 感情 Inner Branding

1. 研究開始当初の背景

地域保健や自治体行政を取り巻く状況は大きく変化し、行政で働く保健師の専門職としての必要性は高まり活動領域は拡大している。しかし、同時に業務の複雑多様化、分散配置、保健事業の外部委託化等が進み、保健師自ら地域に出向いてその実態を感じる事が難しくなっている。さらに、保健師のバーンアウト率は 50%以上との報告もある。これらは、保健師活動の質低下や離職につながり、社会的ニーズに応えられない状況が生じる。

上質な看護実践には看護職の意欲の重要性が報告され、ブランド理論(インナーブランディング: サービス提供側のサービス価値への強い共鳴が、その具現化への意欲を高め、サービスの質が向上する。)は、あらゆる分野で活用できるとされている。よって、公衆衛生看護においてもブランド理論を用いて公衆衛生看護への意欲継続に影響する要素を明らかにし、質向上に関係する要素をマネジメントすることは可能であり重要であると考える。

2. 研究の目的

公衆衛生看護活動への意欲継続がより求められる中堅以上の行政保健師を対象として、バーンアウトにつながるような現実的な障害に抗して意欲継続を可能とする要素と要素間の関係性を明らかにすることによって、保健師活動の質を高めしていくための支援方法について示唆を得ることを目指す。

(1) 中堅以上の行政保健師が共鳴している公衆衛生看護の価値と、公衆衛生看護への意欲継続の背景になっている心理的構造、および保健師活動への意欲継続を可能にする要素を明らかにする。そこから、(2) 現実的な障害に抗して意欲を継続し、公衆衛生看護の質を高めしていくための支援方法について示唆を得る。

3. 研究の方法

(1) 「保健師が共鳴している公衆衛生看護の価値と、公衆衛生看護への意欲継続の背景になっている心理的構造、および保健師活動への意欲継続を可能にする要素」を明らかにするための調査

調査対象: 行政機関に勤務する中堅以上の保健師 20 名程度(市町村保健師、保健所保健師、各 10 名程度)

調査方法: ラダーリング法に基づく半構造化質問紙を用いた面接調査。補足的に関係資料の閲覧を行う。調査内容: 保健師が、価値がある、または保健師をしてきてよかったと思う保健師活動(体験)の内容とその理由、その活動を実現するための考え・行動とそれの中での困難や課題、その活動を成し得た理由、その後の活動に活かされている考えやスキル。

(2) 「保健師が共鳴している公衆衛生看護の

価値と、公衆衛生看護への意欲継続の背景になっている心理的構造、および保健師活動への意欲継続を可能にする要素」の導出

ブランド理論に基づき、質的に各調査内容をカテゴライズする。そして、保健師の公衆衛生看護への意欲が継続し実践の質が高まる概念モデルを作成する。

公衆衛生看護学、ブランド理論、心理学の専門家から成る研究組織メンバーで、の内容および構造を検討し精練する。

4. 研究成果

(1) 中堅以上の行政保健師が共鳴している公衆衛生看護の価値

公衆衛生看護の価値は、以下、10 カテゴリが ~ の大カテゴリに整理された。これらには、やりがい・達成感・満足感・楽しさ・喜び・信頼・つながり・成長といった、好ましい・望ましいと考えられる価値が示された。これらの価値を効果的に体験でき、その素晴らしさを実感できるようにすることは、保健師が公衆衛生看護への意欲を継続し実践の質を高めていくための支援として重要である。

専門性を基にした実践の成果

- ・保健師活動による対象の成長や QOL 向上への感嘆と、そこから生じるやりがい・達成感
- ・保健師活動の積み重ねによる関係者の意識変革や資源の創造へのやりがい
- ・人との出会いの楽しさと連携・協働を実現させることへの自負
- ・地域特性の発見と予防活動への貢献
- ・医療専門職としての予測を踏まえた実践
- ・公平な支援を可能にするシステム構築に対する達成感・満足感、保健師活動を通じた人とのつながり
- ・保健師活動を通じての住民・関係者からの信頼とつながりの醸成
- 保健師の役割自体
- ・保健師の役割の重要性の実感とやりがい
- ・人への関心・愛情が深いという天性を生かせる喜び
- 自らの成長
- ・保健師・公務員・人としての成長

(2) 保健師が価値を感じた保健師活動における理念・行動指針

< 操作的定義 >

理念: 保健師の存在意義、保健師活動の方向性・目的のこと。

行動指針: 理念を実現するための基本的姿勢・主義のこと

理念・行動指針は、以下、15 カテゴリが ~ の大カテゴリに整理された。これらは、住民だけでなく専門職などの関係者も保健師活動の対象と捉えるものであった。そして顕在化した者だけでなく潜在的な要支援者に思いを馳せるものであった。また、住民や関係者と調和のとれた関係を重要とするも

のであり、日本人特有の人との関係の取り方が影響していることが考えられた。

保健師として目指す対象（個人・生活共同体・関係者・地域）の姿

- ・住民や関係者の自立・主体的活動の促進及予防できる病で苦しみ亡くなる人を増やさない
- ・その人が満足できる死に方向に向かって課題を乗り越え自身の力で生き延びられるようにする
- ・要支援者が必要な支援を得て成長・発達・健康増進していけるようにする
- ・住民個人・グループ・生活共同体が主体的に保健活動を継続できるようにする
- ・誰もが支え合いながら生き生きと暮らしていける地域にする
- ・関係機関・者が支援対象者の各ライフステージのつながりや自らが取り組むべき課題を意識し主体的に活動していけるようにする

地区活動の方向性・やり方

- ・「住民が喜んでくれること」を実現するための地区活動を行う
- ・まずは地域の人々をよく理解するために自ら出向き聴く
- ・事が起きた時に必要な活動ができるように信頼のあるネットワークを広げる
- ・所属部署内で保健師・他職種・非常勤が協働できるように、調和を図りながら自らの活動や情報を共有する
- ・支援体制構築・維持に向けて平常時に現実的な範囲で本当に機能する体制を構築していく
- ・より効果的で利用者にとって利便性の高い事業を行う
- 自他に対する基本姿勢
- ・相手の存在（価値観・気持ち・力）を尊重し応援する
- ・保健師の役割・責務を強く自覚し、自らの価値観として気になることを出発点に納得いくまで関わり続ける
- ・自他共に保健師として成長する

(3) 保健師が価値を感じた保健師活動体験から形成された行動指針（考え・スキル）

行動指針（考え・スキル）は、以下、14カテゴリーが ~ の大カテゴリーに整理された。これらの内容は、プロフェッショナリズム[松尾睦 2011]の3側面である、知識の獲得（技術的側面）、自律性（管理的側面）、他者への援助・公共利益への奉仕・職務へのコミットメント（精神的側面）に関するものであり、プロフェッショナルとしての質の高い実践の基になるものと考えられる。

看護における基本的態度

- ・まずは現場に行き現状を知り、声を聴き同じような気持ちになり活動の方向性・原動力を得る
- ・その人に関心を持ち、その人の目線に自分の身を置く

保健師活動の核となる信念

- ・自ら声を挙げ(られ)ない住民への関わりこそ保健師活動のコア
- ・誰もが暮らしやすい地域づくりのために人と人をつなげることは保健師の責務
- ・公衆衛生看護専門職としての強い責務で現場に踏み込む
- 保健師活動実践上のコツ
- ・主体的活動の発展をめざし住民のペースを尊重し共に考え行動する
- ・生活拡大のために、その人に必要な社会資源をつなげる
- ・現状維持も成果として価値を置く
- ・対象者と共にその時を楽しむ
- ・個別支援を大切に重ね、職場で情報共有することで地域の健康課題が見出せる
- ・情報共有しやすい職場環境をつくる
- ・制度の動向を踏まえ資源づくりのチャンスをつかえ関係者と繋がる
- ・地域診断に基づき PDCA サイクルを回し地域を動かす
- ・支援が上手くいかなかった時こそ、その時の感情に向き合いリフレクションする

(4) 保健師が価値を実感できる質の高い保健師活動を成し得る要因

質の高い保健師活動を成し得る要因は、以下、15カテゴリーが ~ の大カテゴリーに整理された。特に他者からの称賛・好評や自身の熱意(c,i)は、プラスの感情が付随し経験年数に関わらず見られており、キャリアを通じた要因と考えられた。また、組織全体の把握や研究といった俯瞰的視点を伴う要因(a,g,k)は、保健師経験20年以上の者にのみ見られており、経験年数ごとに適した要因がある可能性が示唆された。

職場環境に関すること

- a. 建設的革新的な役場全体の体制・風土の中での成長
- b. 管理職からの具体的指導内容
- c. 自分の実践に対する称賛・好評
- d. 保健師活動について信頼して相談できる人の実践・助言・評価
- e. 後輩育成の経験
- f. 異動により未知に出会う経験
- g. 保健師活動の組織的現実的探究への参画自己に関すること
- h. 研修への参加
- i. 保健師活動への熱意
- j. 実践の中での試行錯誤
- k. 記録・研究によるリフレクション
- l. 保健師活動に関係するプライベート経験考え・スキルの獲得を支えるもの
- m. 協働・相互扶助できる配属部署の人間関係・風土
- n. 趣味・休暇の時間をとること
- o. 親の支え

(5) 保健師が価値を感じた保健師活動における困難・課題

困難・課題は、以下、15 カテゴリが ~ の大カテゴリに整理された。

職場・地域環境に関すること

- ・失敗や経験者の質問・確認を許さない上司の態度
- ・他職種の上司から保健師としての意に反する指示を受けること
- ・限られた人材・時間の中で効果的効率的な活動をするための業務調整の不足
- ・人的物的資源不足な地域・職場環境で活動していくこと
- 法制度に関すること
- ・法律・制度の縛りと限界
- 保健師活動・支援対象の課題に関すること
- ・異なる立場や価値観の保健師・他機関・他部署・住民の協力を得てネットワークを広げていくこと
- ・保健師活動の成果が出るまで時間がかかり分かりづらく他職種から理解を得づらいこと
- ・保健師自身の身の危険がある中で支援していくこと
- ・住民の主体的活動を促し実践を待つこと
- ・親から子へ連鎖する健康問題の複雑さ
- ・支援を希望しない・理解できない対象者への支援
- ・事業運営・内容への利用者からの苦情
- 自己の状況や心理に関すること
- ・自分自身の知識・技術不足
- ・経験不足や情報不足がある中で活動しなければならぬ状況の辛さ・疲弊
- ・保健師活動の中で生じる落ち込み・辛さ・切なさ等の心理

(6) 現実的な障害に抗して意欲を継続し、公衆衛生看護の質を高めていく支援方法

上記に示した研究成果(1)~(5)は、以下のような関係にある。

(1)望ましい・好ましいと考えられる価値を包含する「公衆衛生看護の価値」を体験し公衆衛生看護活動への内発的動機付けが促進 (3)「保健師が価値を感じた保健師活動体験から行動指針(考え・スキル)」を形成・強化 (2)「保健師が価値を感じた保健師活動における理念・行動指針」を基にした実践 (1)「公衆衛生看護の価値」の体験というサイクルが回っていく。そして、その基盤には、(4)プラスの感情が付随する「保健師が価値を実感できる質の高い保健師活動を成し得る要因」が成立していることが必要である。また、(5)「保健師が価値を感じた保健師活動における困難・課題」をどのように乗り越えていくかが、(1)「公衆衛生看護の価値」の体験の可否や質を左右する。

よって、現実的な障害に抗して意欲を継続し、公衆衛生看護の質を高めていくためには、望ましい・好ましいと考えられる価値やプラスの感情を意識しながら、(5)の克服・改善への支援と(4)の醸成を図り、(1)(3)(2)それぞれの意図的組織的な言語化を促進していくこ

とで、サイクルの回転を確実にアシストしていくことが重要である。

5 . 主な発表論文等

[学会発表](計 4 件)

雨宮有子、佐藤紀子、細谷紀子、丸谷美紀、石川志麻、宮澤早織、保健師自身が価値を実感できる質の高い保健師活動を成し得る要因、第 76 回日本公衆衛生学会総会、2017 年 10 月 31 日~11 月 2 日、宝山ホール他(鹿児島県・鹿児島市)

雨宮有子、佐藤紀子、細谷紀子、石川志麻、丸谷美紀、宮澤早織、保健師が価値を感じた活動体験から形成された考え・スキル - Inner Branding を活用した質の高い保健師活動への支援方法の開発 -、日本地域看護学会第 19 回学術集会、2016 年 8 月 26 ~27 日、自治医科大学(栃木県・下野市)

雨宮有子、佐藤紀子、細谷紀子、石川志麻、丸谷美紀、宮澤早織、Principles and behavioral guidelines for public health nursing activities in Japan that facilitate intrinsic motivation, The 19th East Asian Forum of Nursing Scholars, 14th -15th March 2016, Makuhari Messe, International Conference Hall (Chiba・Ghiba-city).

雨宮有子、佐藤紀子、細谷紀子、石川志麻、丸谷美紀、宮澤早織、Values from Inner Experiences that Sustain Motivation in Japanese Public Health Nursing, The 6th International Collaboration for Community Health Nursing Research Conference, 19th -21st August 2015, Seoul (Korea).

6 . 研究組織

(1)研究代表者

雨宮 有子 (AMAMIYA, Yuko)
千葉県立保健医療大学・健康科学部看護学科・准教授
研究者番号：3 0 2 7 9 6 2 4

(2)研究分担者

佐藤 紀子 (SATO, Noriko)
千葉県立保健医療大学・健康科学部看護学科・教授
研究者番号：8 0 2 8 3 5 5 5

細谷 紀子 (HOSOYA, Noriko)
千葉県立保健医療大学・健康科学部看護学科・准教授
研究者番号：6 0 3 3 4 1 8 2

石川 志麻 (ISHIKAWA, Shima)
千葉県立保健医療大学・健康科学部看護学科・講師
研究者番号：5 0 5 9 8 9 1 9

丸谷 美紀 (MARUTANI, Miki)
鹿児島大学・医学部保健学科・地域看護・
看護情報学講座・教授
研究者番号：50442075

宮澤 早織 (MIYAZAWA, Saori)
千葉県立保健医療大学・健康科学部看護学
科・助教
研究者番号：80749557

大光 房枝 (DAIKOU, Husae)
千葉県立保健医療大学・健康科学部看護学
科・准教授
研究者番号：00555287